

## 日本ジオパーク委員会の5年間の成果と今後の課題 ―委員会事務局の立場から見て―

### Achievement and future challenges of Japan Geopark Committee

渡辺 真人<sup>1\*</sup>

Mahito Watanabe<sup>1\*</sup>

<sup>1</sup> 産業技術総合研究所地質標本館

<sup>1</sup> Geological Museum, Geological Survey of Japan, AIST

日本ジオパーク委員会 (JGC) は、日本におけるジオパークの推進を目的として2008年5月に設立され、これまで5年間活動を行ってきた。JGCは申請書の書類審査と現地審査に基づいて日本ジオパークネットワーク加盟認定 (日本ジオパークの認定) と世界ジオパークネットワーク加盟候補地域の推薦を行ってきた。これまでに25地域の日本ジオパークを認定し、6か所の世界ジオパーク候補を推薦した。JGC設立の当初は、ユネスコによる世界ジオパークネットワークの理念と審査基準を準用して審査を始めた。2009年に認定を受けたジオパークを構成員とする日本ジオパークネットワーク (JGN) が設立されてからは、JGCはJGNと協力し、各ジオパークでの実践と経験をもとに、日本の地学的特質と社会の仕組みにあったジオパークの理念と審査基準を模索してきた。その結果、日本のジオパークには次のような特徴が今のところある。日本のジオパークの運営はヨーロッパよりもトップダウン的、中国やマレーシアよりもボトムアップ的な形を取っている。また、災害、あるいは食文化といった自然と人との関わりに関わるテーマや見どころが多く含まれるとともに、地圏・水圏・生命圏・人間圏のつながりを他の国のジオパークより重視しているように見える。このような特徴を生んだ背景について考察し、今後の日本のジオパークの課題について検討する。

キーワード: ジオパーク, 日本ジオパーク委員会, 日本ジオパークネットワーク, 世界ジオパークネットワーク, 持続可能な開発, 持続可能な社会

Keywords: Geopark, Japan Geopark Committee, Japanese Geoparks Network, Global Geoparks Network, Sustainable Development, Sustainable society